

すべての革新は患者さんのために

中外製薬株式会社

会社案内



人の想像が及ばないところにこそ、

人々が待ち望んでやまない

新しい世界の始まりがある。

だからこそ私たちは、国の大壁を取り払い、

世界中の技術とノウハウを結集して

常識とたたかい続ける。

同じ病気の人が100万人いれば、

100万通りの答えを目指す。

医師や医療機関とともに、

病気に苦しむ人々に新たな希望を届け続ける。

なんでもない1日を守り抜くために、

今日も新たなイノベーションを。

できそうもない薬でなければ、

私たちが生み出す意味はない。

創造で、想像を超える。

すべての革新は患者さんのために



CHUGAI

|

中外製薬 |

Roche ロシュ グループ





ミッションステートメント

中外製薬グループは、ミッションステートメント(=企業理念)をすべての企業活動の根幹としています。

「存在意義」は、中外製薬の不变の最重要概念であり、関東大震災後の薬不足を憂いた創業者が「世の中の役に立つ薬をつくる」と誓った「創業の精神」を受け継いでいます。「価値観」は、社員が共有し体現していく価値です。フロンティア精神を持ち、イノベーションの追求を続けながら、社会の期待や要請に応えるべく常に誠実であること。それによって、一人ひとりの患者さんに貢献していくことを明示しています。「目指す姿」では、今後の医療を取り巻く環境変化を踏まえ、「製薬ビジネス」の枠組みを超えて、ヘルスケア産業の「トップイノベーター」を目指すことを掲げています。こうした「共有価値の創造」を通じたミッションステートメントの実現こそ、中外製薬の価値創造の姿です。



存在意義／Mission

革新的な医薬品とサービスの提供を通じて
新しい価値を創造し、
世界の医療と人々の健康に貢献します



価値観／Core Values

1. 患者中心／Patient Centric

患者さん一人ひとりの健康と幸せを最優先に考えます

2. フロンティア精神／Pioneering Spirit

自らを磨き、新たな発想で、イノベーションを追求します

3. 誠実／Integrity

常に誠実な行動で、社会の期待に応えます



目指す姿／Envisioned Future

ロシュとの協働のもと、
独自のサイエンス力と技術力を核として、
患者中心の高度で持続可能な医療を実現する、
ヘルスケア産業のトップイノベーターとなります



INDEX

ミッションステートメント P.2-3

中外製薬について

中外製薬の歩み P.4-5

中外製薬のビジネスモデル P.6

数字でわかる中外製薬 P.7

中外製薬が目指す姿 P.8-9

中外製薬のイノベーション

創薬力 P.10-11

次世代個別化医療 P.12-13

CHUGAI DIGITAL P.14-15

中外製薬のサステナビリティ P.16-19

会社情報

ネットワーク P.20

会社概要 P.21

中外製薬について 中外製薬の歩み

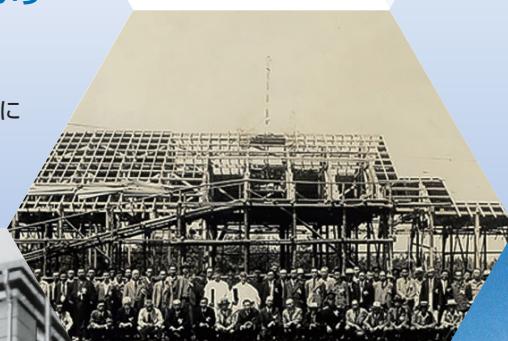
中外製薬は1925年に産声を上げました。その後、研究所や工場の建設など経営の近代化を着々と進め、さまざまな製品を通して、日本をはじめ世界の医療に貢献してきました。

創業以来、連続的なイノベーションの創出により事業構造や業態の革新を図り、幾多の困難を乗り越えてきた中外製薬の歴史を振り返ります。

創業～1930年代

震災による医薬品不足の解決に向け、「世の中に役立つ薬をつくる」という使命感を抱き創業

創業から一貫して続く、世界を視野に人々の健康に貢献する志



1960～1970年代

大衆薬から医療用医薬品へ

医療用医薬品に注力する戦略で未来への種を撒く



1940～1950年代

戦後の混乱期の中、事業再建に取り組み再出発

戦災からの復興期に大衆薬市場で成長



1980～1990年代

未来の医療に向けて、バイオ技術に挑戦

化学合成からバイオによる創薬への挑戦
今日の強みの礎を築く

2000年代

ロシュとの戦略的アライアンスを開始

戦略的アライアンスで競争力を高め、トップ製薬企業へ



国産初の抗体医薬品を発売。連続的な革新的医薬品創出

中外製薬の創薬力を証明する抗体エンジニアリング技術の進化



医療の新しい潮流、個別化医療の普及促進

日本の個別化医療を牽引し、社会に高い価値をもたらす

2030

ヘルスケア産業のトップイノベーターへ

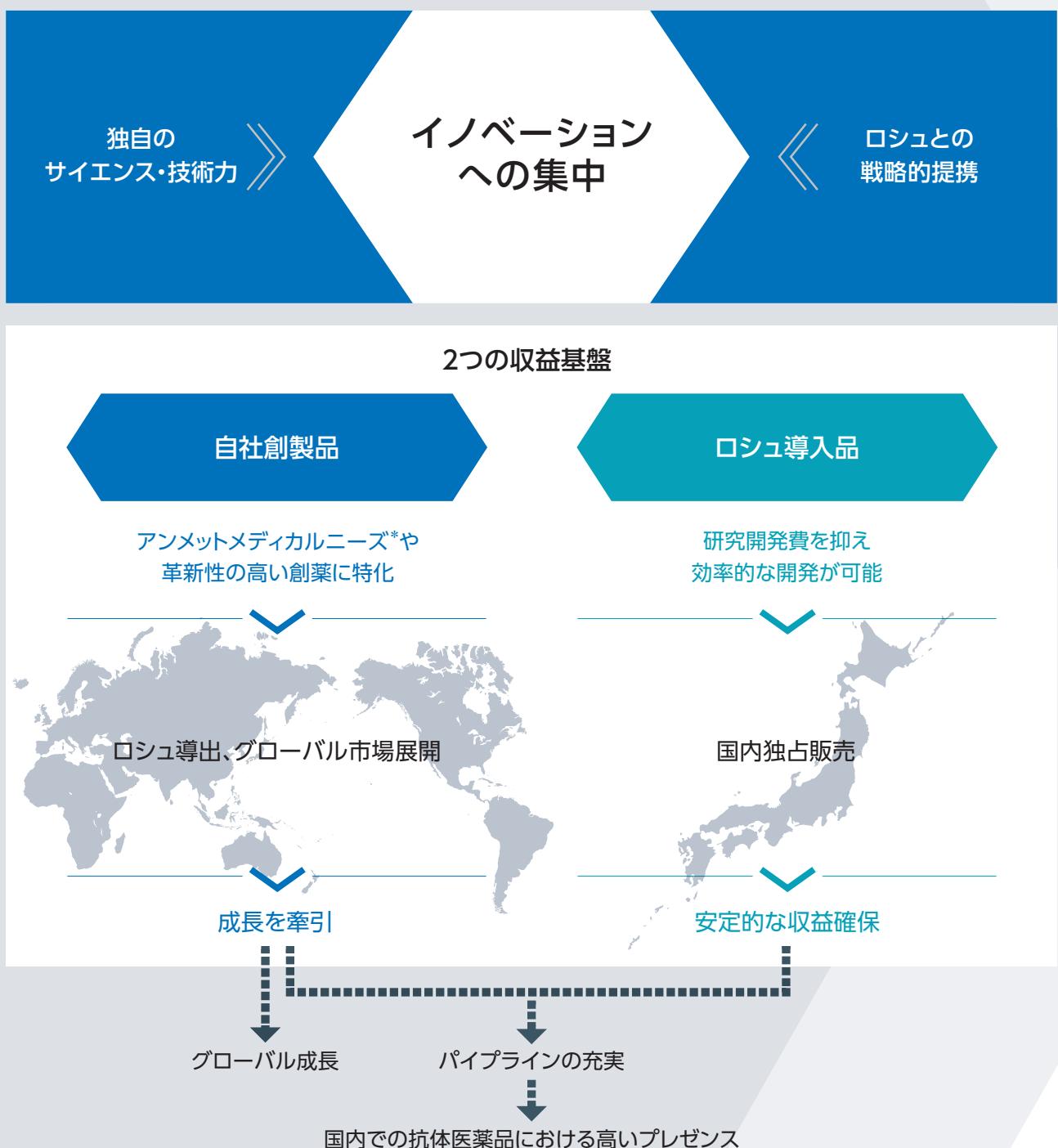
ロシュについて

ロシュは、1896年に設立されたスイスのバーゼルに本拠地を置く製薬企業です。「医薬品」と「診断薬」の2つの事業を主軸とし、幅広い領域で医療に貢献しており、中でも、バイオマーカーや診断薬を用いて、効果が見込める患者さんに適切な薬剤を選択する「個別化医療」をグループ戦略の中心に据えています。

また、2002年に中外製薬と戦略的アライアンスを開始し、中外製薬の株式の過半数を保有する株主となりました。世界屈指のバイオテクノロジー企業として知られている米国のジェネンテック社もロシュ・グループの一員です。

中外製薬のビジネスモデル

中外製薬はロシュ・グループの一員でありながら、自主独立経営を維持し、独自性と多様性を重視してイノベーションに集中する独自のビジネスモデルを開拓しています。ロシュとの戦略的アライアンスにより、中外製薬はロシュの画期的な新薬を国内で独占的に販売することができ、この安定的な収益基盤により、革新性の高い独自技術や創薬への集中投資が可能となります。こうして生まれた自社創製品をロシュに導出することで、ロシュのインフラを通じてグローバル市場に展開し、当社の成長を牽引しています。一方、ロシュにとっても、革新的な研究に特化した中外創製品をグローバル市場で販売することができ、両社の強みを活かしたWIN-WINの関係を構築しています。



* いまだに有効な治療方法が無く、十分に満たされていない医療ニーズのこと

数字でわかる中外製薬

研究開発型製薬企業

がん領域の国内売上シェア

No.1*

抗体医薬品の国内売上シェア

No.1*

* Copyright © 2023 IQVIA.

出典：医薬品市場統計 2022年12月 MATをもとに作成
無断転載禁止 市場の範囲は中外製薬定義による

強い財務基盤

(2022年12月期)

売上収益*

1兆1,680 億円

営業利益*

4,517 億円

* Coreベース実績(国際会計基準(IFRS)実績から、当社が
非経常的とされる事象にかかる損益等を除いたもの)で表記

革新的な医薬品を世界へ

Breakthrough Therapy* 指定 9回

自社品のグローバル承認国数 110カ国以上

* 重篤または致命的な疾患や症状を治療する薬の開発および
審査を促進することを目的に、2012年7月に米国食品医薬品局(FDA)にて導入された制度

患者中心の高度なソリューション提供

顧客満足度評価(がん領域、MR以外からの情報入手) No.1^{*1}

顧客満足度評価(安全性情報提供) No.1^{*2}

*1 MCI DIGITAL『医師版マルチメディア白書2022年夏号』がん診療医師対象「オウンドメディア評価(1位)／医療系ポータルサイト評価(1位)」に基づく

*2 インテージヘルスケア「2022安全性情報ニーズ把握のためのアンケート調査」の全回答者合計結果に基づく

イノベーションの源泉は「人財」

(2022年12月末時点)

従業員数(連結)

7,771名

女性管理職比率^{*1}

17.8%

男性育児休職取得率^{*2}

89.7%

従業員一人あたりの教育投資額^{*3}

21.6万円

*1 単体在籍ベース

*2 有価証券報告書ベース

*3 2022年単体在籍ベース

地球環境保全に向けて

(2022年12月時点)

エネルギー起源のCO₂排出量(Scope 1+Scope 2^{*1}) 2019年比 45.6%^{*2}削減

*1 Scope 1:自社による直接排出量、Scope 2:他社から供給された電力などのエネルギー起源間接排出量

*2 電力会社が提供するサステナブル電力および購入済みのグリーン電力証書・非化石証書の活用分も含めた実質的な削減率

中外製薬が目指す姿

中外製薬はロシュとの協働のもと、「革新的新薬」を事業のコアに据えながら、製薬企業に限らず多様なプレーヤーがイノベーションに挑戦する世界のヘルスケア領域においてトップイノベーターを目指しています。

2030年 トップイノベーター像



世界の患者さんが期待する

世界最高水準の創薬力を有し、世界中の患者さんが
「中外製薬なら必ず新たな治療法を生み出してくれる」と
期待する会社



世界の人財とプレーヤーを惹きつける

世界中の情熱ある人財を惹きつけ、
ヘルスケアにかかわる世界中のプレーヤーが
「中外製薬と組めば新しい何かを生み出せる」と想起する会社



世界のロールモデル

事業活動を通じたESGの取り組みが評価され、
社会課題解決をリードする企業として
世界のロールモデルである会社

成長戦略「TOP i 2030」

「TOP i 2030」は、2030年に当社が到達すべき姿を起点にバックキャストして描いた成長戦略です。 「世界最高水準の創薬実現」と「先進的事業モデルの構築」を2つの大きな柱に据え、この戦略を成功させるキードライバーとして、「RED* SHIFT」「DX」「Open Innovation」の3つを特定しました。価値創造の源泉である創薬研究と早期臨床開発に経営資源をシフトするとともに、デジタルの活用による革新的な新薬創出やバリューチェーンの効率化、外部連携に積極的に取り組みます。そして、2030年にはR&Dアウトプットを倍増し、自社グローバル品を毎年上市できる会社を目指しています。

* Research(研究)とEarly Development(早期開発)の総称



『R&Dアウトプット 倍増』・『自社グローバル品 毎年上市』

世界最高水準の創薬実現

- ▶ 独自の創薬アイデアを具現化する既存技術基盤の拡張と新規技術基盤の構築
- ▶ R&Dアウトプット倍増により毎年自社グローバル品上市
- ▶ デジタル活用およびグローバル先進プレーヤーとの連携強化によるイノベーション機会の加速

先進的事業モデルの構築

- ▶ デジタルを核としたモデル再構築による患者さんへの価値・製品価値の飛躍的向上
- ▶ バリューチェーン全体にわたる生産性の飛躍的向上
- ▶ 医薬品の価値最大化と収益の柱を目指したインサイトビジネスの事業化

Key Drivers

▶ DX

▶ RED SHIFT

▶ Open Innovation

中外製薬のイノベーション 創薬力

アンメットメディカルニーズへの挑戦

中外製薬はアンメットメディカルニーズを解決するために、バイオ・抗体技術や標的分子探索技術等の強みを活かして、独自性の高い医薬品を生み出してきました。画期的な医薬品を世界中の患者さんにいち早くお届けしたいという強い想いのもと、中外製薬は常に新たなサイエンス、技術や疾患領域に挑戦し、イノベーションを追求しています。

創薬アプローチの特徴

中外製薬の創薬の特徴は「技術ドリブン」です。特定の疾患領域に焦点を絞り創薬に取り組むというアプローチとは異なり、中外製薬独自の「技術」を開発し、その技術を医薬品に適用するという研究者の発想とものづくりの技術力により、患者さんに新しい価値を提供できる革新的な新薬を連続的に創出することを目指しています。中外製薬の研究部門には、ロシュとの協業によるメリットや産学連携によるオープンイノベーションなど、他社にはない強みがあります。これらのネットワークも活用しながら、疾患の原因分子を解明することで創薬ターゲットを選定しています。



中外製薬のモダリティ

中外製薬は、独自の抗体エンジニアリング技術の進展をはじめ、低分子や中分子など多様な創薬モダリティ(治療手段の分類)による研究基盤を背景とした高い創薬力が世界的に評価されています。独自の創薬技術に磨きをかけ、さらに、外部の技術も柔軟に取り込むことでマルチモダリティ戦略を展開していきます。

抗体医薬品

抗体医薬品とは、私たちの免疫システムにかかわる物質である抗体の働きを応用した医薬品です。特定のターゲットをピンポイントで狙うため、副作用の少ない医薬品として期待されています。中外製薬は、国内でいち早くバイオ医薬品の研究開発に取り組み、国産初の抗体医薬品を創製。抗体医薬品の可能性をさらに広げる独自の抗体エンジニアリング技術を駆使し、新たな創薬につなげています。

中分子医薬品

中分子医薬品は、低分子と抗体(高分子)の間に位置づけられる化合物で、特異性が高く、細胞内のターゲットにも結合でき、経口投与が可能といった特徴があり、低分子と抗体医薬のメリットをあわせ持つ次世代の医薬品として期待されています。中外製薬では10年以上前から経営資源を投下し、競争優位性を有する独自の中分子技術を確立しています。

	低分子	中分子	抗体(高分子)
分子量	500以下	500~2,000	10,000以上
投与経路	経口／注射 	経口／注射 	注射 
標的特異性			



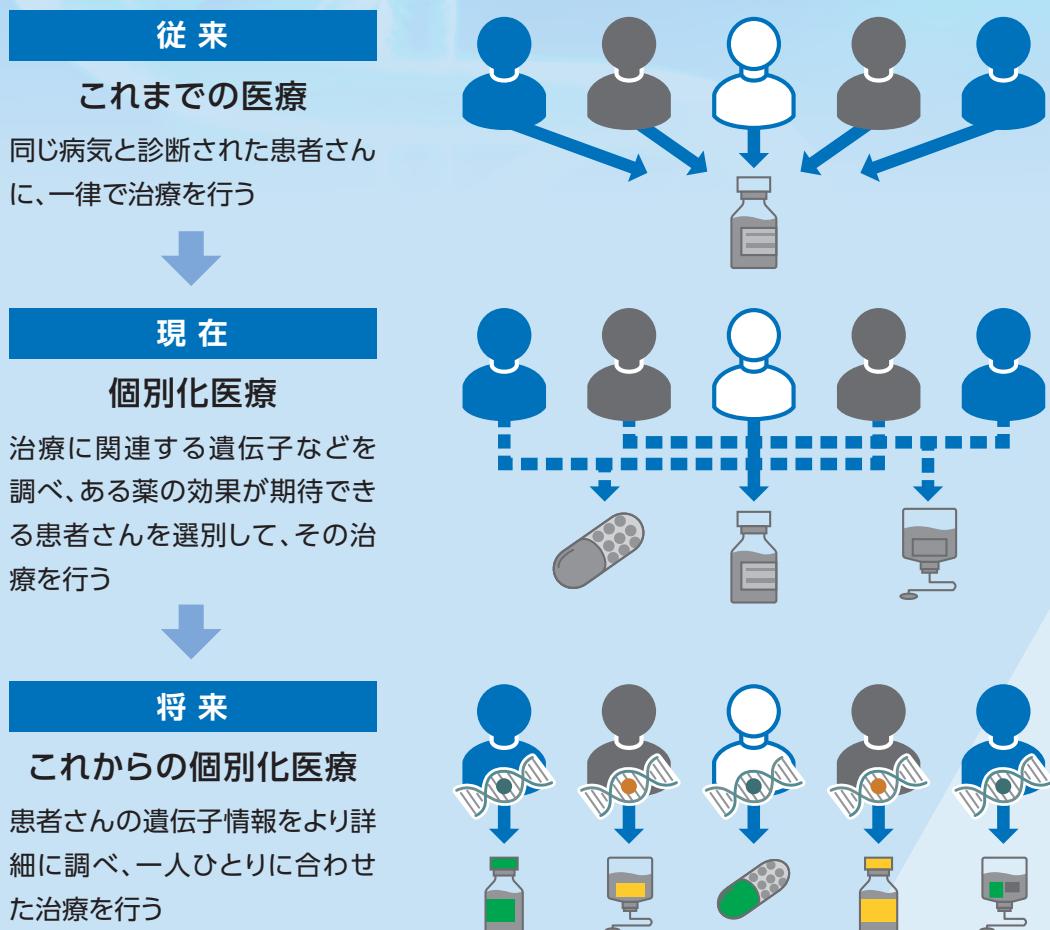
次世代個別化医療

一人ひとりに合った治療を届ける

中外製薬は患者さんの遺伝子情報などに応じて治療計画を立てる「個別化医療」の国内パイオニアとして、その進展に貢献してきました。デジタル技術やデータを活用し、一人ひとりに最適な治療を実現する次世代の個別化医療の推進に取り組んでいます。

個別化医療とは

同じ病気の患者さんに、一律に同じ治療を行う従来の医療に対し、個別化医療とは患者さんの体質や遺伝子情報などに基づき、一人ひとりに合った治療を行うことです。より効果が期待される治療を選ぶだけでなく、効果が見込めない治療を回避することで医薬品の副作用リスクの低減にもつながります。



がんゲノム医療

がんは臓器別から遺伝子別の時代へ

一人ひとりの「ゲノム(遺伝子情報)」の違いに合わせて、病気の診断や治療を行うのが「ゲノム医療」です。「がんゲノム医療」では、がん患者さんによって異なるがんの遺伝子の変化(遺伝子変異)を「がん遺伝子パネル検査」と呼ばれる検査などで調べ、その情報に基づいて診断や治療を行います。これまでのように体の“どこに”がんができるかで治療を考えるのではなく、がんの原因となる遺伝子変異に着目します。

 「おしえて がんゲノム医療」
<https://gan-genome.jp/>

デジタルを駆使したソリューション

デジタルバイオマーカーへの取り組み

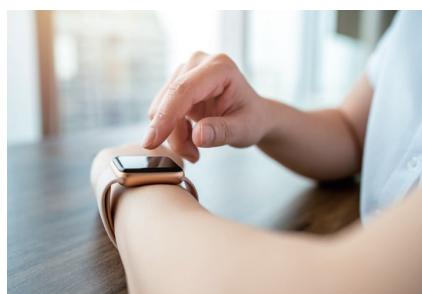
デジタルバイオマーカーとは、スマートフォンやウェアラブルデバイスから得られるデータを用いて、病気の有無や治療による変化を客観的に可視化する指標です。中外製薬では、複数の臨床開発プロジェクトにおいてウェアラブルデバイスを活用し、これまで取得できなかったリアルタイムでの患者さんの生理学的データを収集し、解析をしています。このようにデジタル技術を活用することにより、新薬の臨床開発プロセスの効率化・高度化、医薬品の価値証明、疾患理解などを進め、患者さんに新しい価値を提供していきます。

 「デジタルバイオマーカーへの取り組み」
https://www.chugai-pharm.co.jp/profile/digital/digital_biomarkers.html

リアルワールドデータの利活用

リアルワールド(RWD)とは、電子カルテなど、日常の実医療の中で得られる医療データのことです。RWDをはじめとしたビッグデータを適時適切に活用することで、臨床試験では把握できなかった実診療における患者さんの状況を理解し、一人ひとりに合った治療の実現に貢献していきます。

 「リアルワールドデータの利活用」
https://www.chugai-pharm.co.jp/profile/digital/real_world_data.html

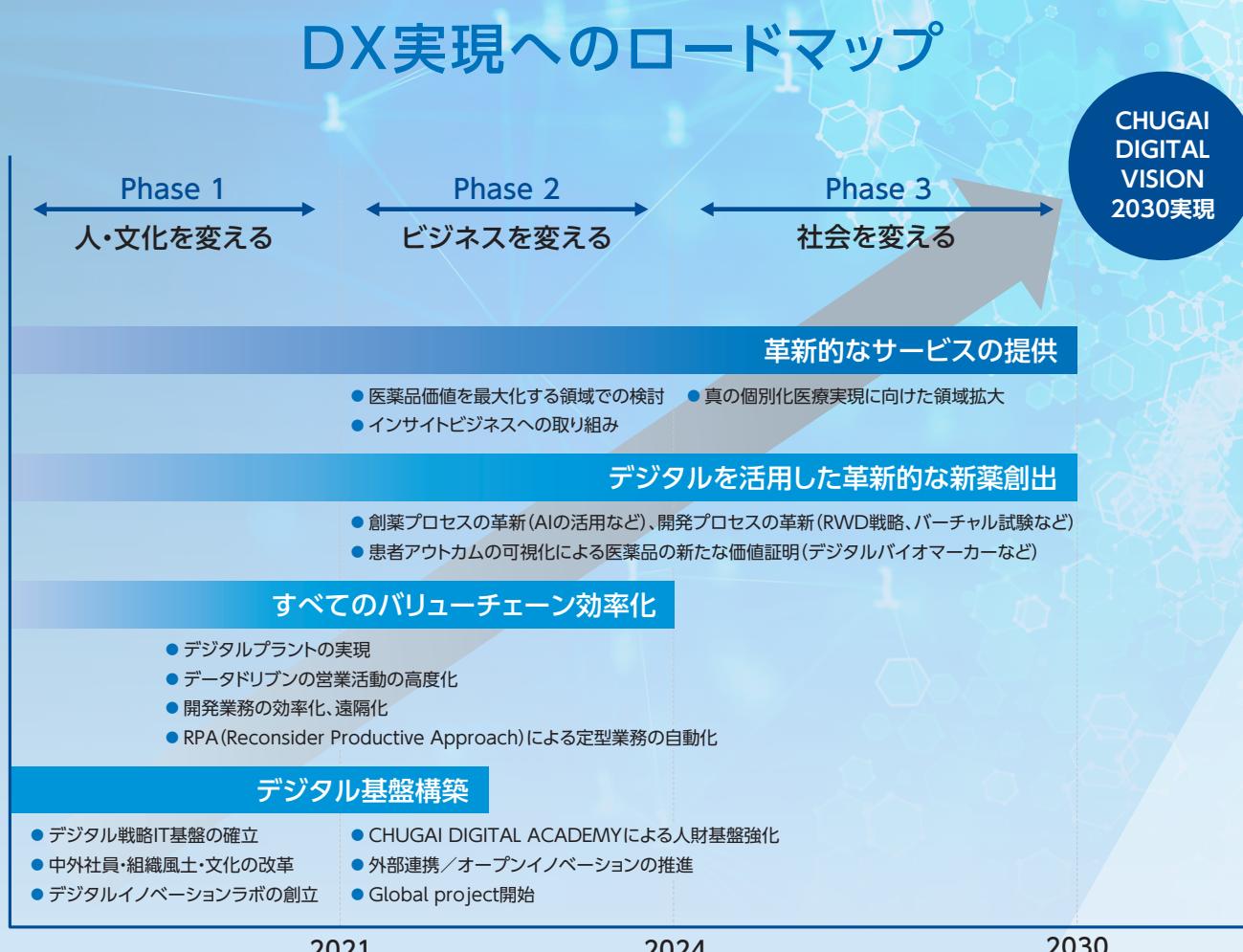


 「よくわかる個別化医療」
<https://www.chugai-pharm.co.jp/pltn/bio/phc/>

CHUGAI DIGITAL

Phase 1「人・文化を変える」から Phase 2「ビジネスを変える」へ

中外製薬は、デジタルの技術によって自らのビジネスを変革し、社会を変えるヘルスケアソリューションを提供するトップイノベーターを目指しています。DX推進のため策定した「CHUGAI DIGITAL VISION 2030」の3つの基本戦略のうち、Phase 1「人・文化を変える」を完了し、Phase 2「ビジネスを変える」へシフトしています。



DXグランプリ2022
Digital Transformation

「DX銘柄」において2020年より3年連続で選定
「DXグランプリ2022」に選定

デジタルを活用した革新的な新薬創出

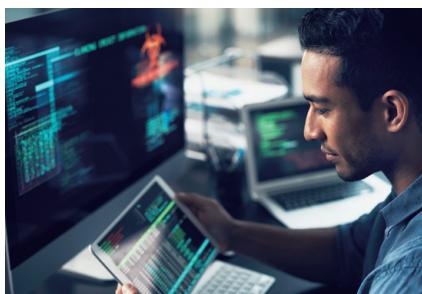
AIをはじめとした先端技術を活用して医薬品開発の成功確率を向上させるとともに、創薬プロセスの時間やコストを大幅に短縮し、圧倒的な効率化と革新を目指しています。また、中外製薬が強みとする疾患領域でのターゲット探索や、技術的な知見が豊富な各種モダリティでの分子設計においてAIを活用し、中外製薬が独自に保有する大量のデータ解析に基づき、革新的な新薬創出を目指しています。

すべてのバリューチェーン効率化

AIやロボティクス、AR/VRなどのデジタル技術を活用し、各部門・各機能のプロセスの大規模な効率化を目指します。例えば、「デジタルで生産業務を変革し、生産性を高めて人財を高付加価値化する」をコンセプトに、人とオペレーションのデータ連携・最適化を図るデジタルプラント化を浮間工場で完了し、稼働を開始しました。今後は、新しいオペレーションを支えるデジタル基盤を構築し、各施策および他拠点への展開に向けた検証を行っていきます。

デジタル基盤構築

デジタル人財の採用や育成を積極的に進めるとともに、社員の自由な発想やチャレンジを形にする仕組みを設けています。例えば、「CHUGAI DIGITAL ACADEMY」という仕組みでは、データサイエンティストなどデジタル人財を体系的に育成しています。充実した講義・OJTによる実務への適用サポートといった社内コンテンツの提供に加え、社外での研修プログラムや人財交流、大学・研究機関との連携の中で、「製薬×デジタル」のスキル・経験を高めています。こうした取り組みを通して、新しい価値創出の基盤を確立していきます。



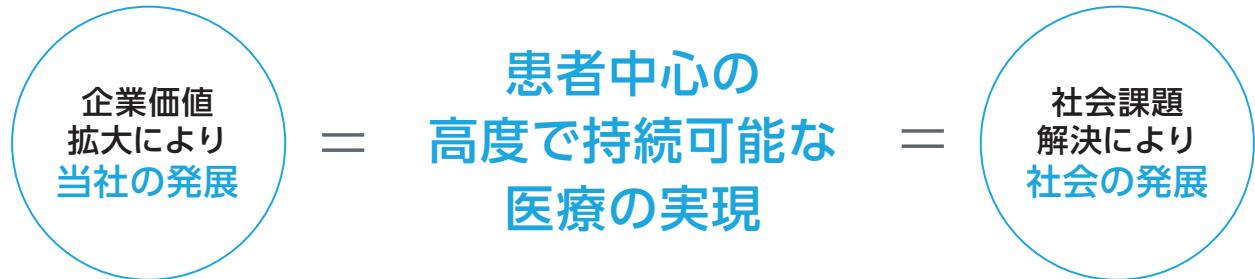
中外製薬のサステナビリティ

社会との共有価値の創造

中外製薬は、経営の基本方針としてステークホルダーとの「共有価値の創造」を掲げています。

この共有価値の目標となるのは、目指す姿でも掲げている「患者中心の高度で持続可能な医療の実現」です。さまざまなステークホルダーと価値を共有しながら、中外製薬ならではのビジネスモデルを最大限に活用して連続的なイノベーションを創出し、患者さん、そして次世代の医療の仕組み構築にも寄与することで、自社と社会、双方の発展を目指しています。

当社と社会の共有価値創造



中外製薬が取り組む持続可能な開発目標

地球環境と国際社会のサステナビリティを確保するための社会課題には、あらゆる国や組織が取り組むべきであり、中外製薬グループもステークホルダーと価値を共有しながら、事業活動のすべての場面で社会課題解決への貢献を考慮していくべきだと考えています。

「中外製薬として果たすべきこと」「中外製薬の事業領域を踏まえて優先的に取り組むこと」などを精査し、SDGsの17目標の中で、中外製薬グループのミッションに直結する目標3を最重点目標とし、それを実現するために必要な4目標(8、9、12、17)、事業活動の基盤となる6目標(5、6、10、13、15、16)の計11の開発目標に重点的に取り組んでいます。

中外製薬が貢献するSDGs



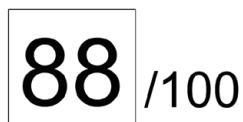


社外からの評価

世界的なESG投資指数「DJSI World」に3年連続で選定
2022年は医薬品セクターにおいて世界1位の評価

Chugai Pharmaceutical Co., Ltd.
Pharmaceuticals, Biotechnology & Life Sciences

Top 1%
S&P Global ESG Score 2022



As of February 7, 2023.
Position and Score are industry specific and reflect exclusion screening criteria. Learn more at spglobal.com/esg/yearbook

S&P Global

Sustainable1

CDP気候変動対策部門
「A」リスト企業に選定



3年連続で「健康経営優良法人・
ホワイト500」に認定(通算5回目)



温室効果ガス削減目標で
「SBT」認定を取得



なでしこ銘柄



新・ダイバーシティ
経営企業100選



プラチナくるみん



えるぼし
(3つ星)



PRIDE指標



サステナビリティの取り組み

「患者中心の高度で持続可能な医療の実現」に向けて

患者中心

中外製薬では、「患者中心」の医療とは「一人ひとりが最適な治療を選択できる医療」であると考えています。その実現に向けて、患者さんをパートナーとして位置づけ、患者さんとご家族の声を聞きながら、患者さんが思い描く環境になるような医療の変革につなげるため、取り組んでいます。患者団体の代表者と当社のCEOとの対話「Dialogue」では、それぞれの立場で感じている医療の課題の共有と解決に向けた意見交換を行っています。さらに「Dialogue」で上がった「創薬に関する研究者との対話の機会創出」という課題に対しては、患者さん・ご家族の声を創薬研究に取り入れる新たなスキーム「PHARMONY*（ファーモニー）」を構築しました。

* 「Patients」「Pharma」「Harmony」を掛け合わせた造語。中外製薬と患者さんが互いの考え方への尊重・理解を図りながら患者さんのための創薬研究をともに目指すという想いを込めています。



地球環境保全 中期環境目標2030

中外製薬グループは、マテリアリティとして特定した重点的に取り組むべき重要課題のうち、気候変動対策、循環型資源利用、生物多様性保全の3つの課題について、2030年を最終年とした中期環境目標を設定し、持続可能な地球環境の実現に貢献します。さらに、世界的に最重要テーマであり、長期的かつ大規模対策が必要となる気候変動対策について、2050年を最終年とした長期目標として、自社活動における燃料や電力使用などからのCO₂排出量ゼロを目指します。





人財・ダイバーシティ&インクルージョン

中外製薬は、イノベーションの源泉は「人」であり、人財こそが最大の資産ととらえています。そのため、異なる価値観やアイデアを持つ多様なすべての社員が主役となり、働きがいや成長を実感しながら能力を十分に発揮できるよう、ダイバーシティ&インクルージョン推進や健康経営に注力するとともに、「社員エンゲージメント」と「社員が活きる環境」の側面から「働きがい改革」に取り組んでいます。柔軟性の高い働き方の推進や、特に人財育成では「自律的学びを通じた成長」に注力し、学びの機会やキャリア形成を支援しています。例えば、オンライン学習プラットフォームの活用による自律的な学びや社員同士の相互研鑽、部下とマネジャーで定期的に実施している1on1ミーティングでは育成にフォーカスした対話を推奨し、実践しています。



社会貢献 グローバルヘルス

中外製薬の社会貢献では、「医療」「福祉」「共生社会」「次世代育成」「地域社会」を優先分野とし、患者さん中心の持続可能な医療の基盤を支えると共に、健康な社会を広げていくための取り組みを推進しています。世界には、いまだ有効な治療法がない疾患に苦しむ人々や、治療法があるにもかかわらず、貧困あるいは制度上の理由などで必要な医療を受けられない人々がいます。中外製薬は、医療体制が脆弱な低・中所得国を対象に、保健医療アクセスの持続的な向上を支援しています。現地ニーズを第一にとらえ、中外製薬の強み、技術、専門性を活かし、公的機関やNGO、業界団体などとの協力活動に取り組んでいます。



会社情報 ネットワーク

国内ネットワーク (2023年4月1日現在)



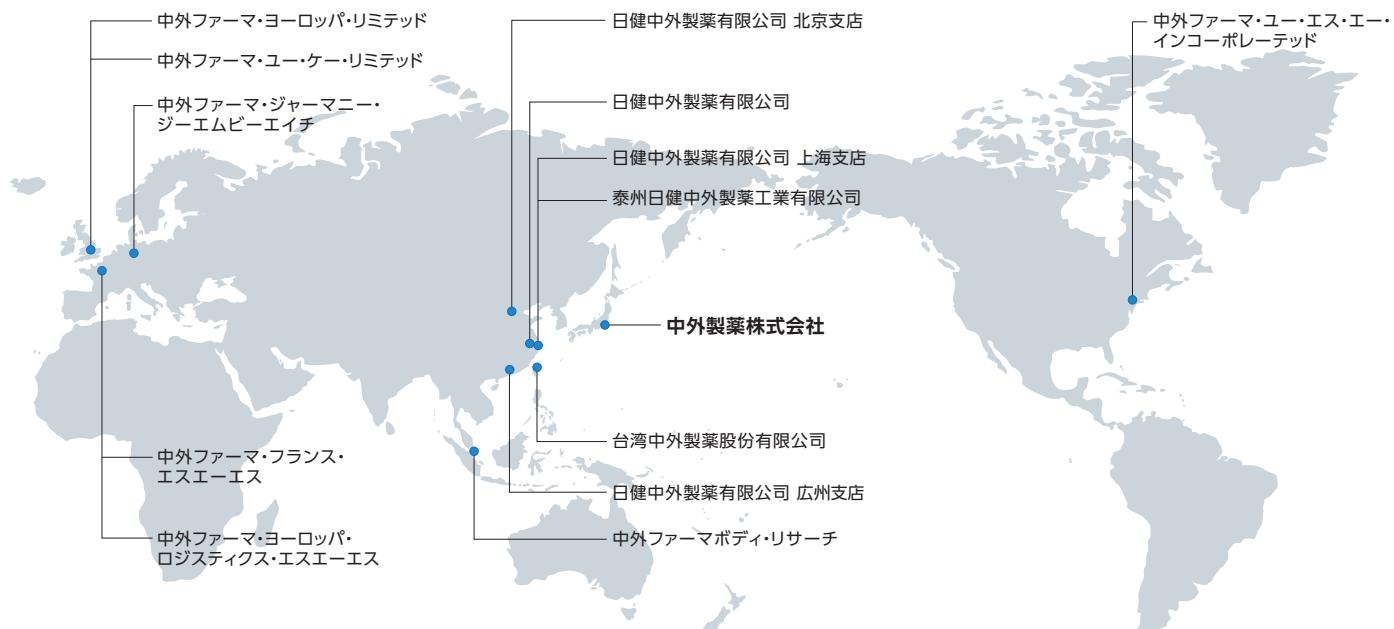
中外製薬の新研究拠点 「中外ライフサイエンスパーク横浜」

富士御殿場研究所と鎌倉研究所を統合し、国内の創薬研究拠点を1カ所に集約することで、創薬力を最大限に発揮できる体制が整いました。創薬研究機能のほか、主に中分子化合物の製剤研究を担う施設も一部含んでいます。



中外ライフサイエンスパーク横浜

海外ネットワーク (2023年4月1日現在)



「中外製薬グループ一覧」
<https://www.chugai-pharm.co.jp/profile/group/>

会社概要

会社概要 (2022年12月31日現在)

商 号 中外製薬株式会社
(CHUGAI PHARMACEUTICAL CO., LTD.)
創 業 1925(大正14)年3月10日
設 立 1943(昭和18)年3月8日
資 本 金 73,202百万円

2022年12月期Coreベース実績

売上収益	1兆1,680億円
営業利益	4,517億円
当期利益	3,177億円

決 算 日 12月31日
従業員数 7,771名(連結)
事業内容 医療用医薬品の研究・開発・製造・販売・輸出入
本 社 東京都中央区日本橋室町2-1-1
日本橋三井タワー(受付15階)

「会社概要」

<https://www.chugai-pharm.co.jp/profile/about/outline.html>

ウェブサイトのご案内



コーポレートサイト

<https://www.chugai-pharm.co.jp/>



サステナビリティ

<https://www.chugai-pharm.co.jp/sustainability/>



株主・投資家の皆さま

<https://www.chugai-pharm.co.jp/ir/>



採用サイト

<https://www.chugai-pharm.co.jp/recruit/new/>

ソーシャルメディア

Twitter
[@chugai_cc](https://twitter.com/chugai_cc)

YouTube
<https://www.youtube.com/chugaijp>

note
<https://note.chugai-pharm.co.jp>



ミックス
紙 責任ある森林
管理を支えています
FSC® C023103

VOC
FREE

UD
FONT

本冊子は責任ある森林管理を通して、資源を守る国際的な森林認証制度の一つであるFSC®(Forest Stewardship Council®: 森林管理協議会)の基準に基づいて生産された「FSC®森林認証紙」と、鉛物油を含まない「Non-VOCインキ」を使用しています。

すべての革新は患者さんのために



中外製薬株式会社 |

Roche ロシュ グループ